

# 平成27年新年のごあいさつ

## 知恵と愛のある共同互恵のまちづくりを目指して

皆様あけましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えのこととご推察いたします。

昨年は、市制施行60周年並びに合併10周年の各事業が盛会に、また無事に執り行われました。ゆるキャラグランプリでも大田原市のマスコット「与一くん」が、全国第6位と大変素晴らしい成果を上げました。これもひとえに、市民の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨年12月の衆議院解散に伴う総選挙において新政権が決まり、争点であった消費税の先送りや国民の信託を受けました。いよいよ政府は、本腰を入れて地方に目を向けます。政府は、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、

①若い世代の就労、結婚、子育ての希望の実現

②東京一極集中の歯止め  
③地域の特性に即した地域課題を解決し、魅力あふれる地方を創生する。

という3つの視点から、将来にわたって活力ある日本社会を持続していくために、これらに関する施策を総合的かつ計画的に実施するとしています。

現在の大田原市においても、地方創世のため選択と集中により各種施策を展開し、各分野でバランスがとれた市政運営となるよう心がけているところです。

医療、福祉、教育、産業、文化とバランスがとれ安全で安心なまちづくりのため、消防本部庁舎の建設と那須地域の消防の広域化を進め、安心生活創造事業を市内全域で展開するなど着実に充実を図っておりますが、一方、高齢化、少子化、山間地域過疎化の課題もありま

す。

ここは逆転の発想で、短所を長所ととらえることが大事であります。高齢化社会は成熟社会であり、まさに知恵者が沢山おいでになる社会、知識や経験を活かし幸多い人生を送れる社会でもあります。また少子化社会での子たくさん家族は、まさに子宝に恵まれた幸せ家族でもあります。苦勞に倍する喜びを得ることができます。このため未婚の方々の出会いと結婚、子育てをすることへの支援策を今まで以上に充実させていきます。中山間地過疎化に対しては、地域を守る人々が山の幸、川の幸、大地の恵みを沢山得ることができるようライフスタイルに変えていかなければなりません。地方創生のために大切なことは、地域資源を活かした産業を振興し、質・量ともに高める工夫が求められている

ことです。このため、産学官及び農工商の連携、グリーンツーリズム、八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン等、地域産業振興と雇用、所得の向上に最大限の支援をします。

限られた財源を有効活用し行政サービスの更なる向上を実現するため「知恵と愛のある共同互恵のまちづくり」をスローガンに掲げ、市民の

皆様とともに行政運営を進めていき、どこでも、だれでも、幸せを感じる事ができる市政を目指していきます。

結びに、市民の皆様にとりまして幸多い年になりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

大田原市長  
津久井 富雄

